



### 千葉街道

市川で江戸川を渡り千葉と東京を結ぶ大動脈、国道14号は通称「千葉街道」として知られていますが、この道筋がそう呼ばれるようになったのは、明治6年（1873年）千葉市が県庁所在地になってからのことです。

明治時代に整備されたこの道は千葉から東京に出るために最初に造られたもので、江戸時代の千葉寺参りの道がほぼ踏襲されましたが、千葉においては東京への距離を短縮するために海岸よりのコースがとられました。

工事は難航しましたが、8年の歳月をかけて**明治19年（1886年）に完成**しています。

本道路は、東京と千葉を結ぶ唯一の幹線道路として、古くから利用されてきましたが、昭和30年代から京葉臨海工業地帯の発展により、全国でも有数の自動車交通量の増加を示し、その緩和を図るため国道14号のバイパスとして、京葉道路が建設され、昭和54年に全線供用されています。また、千葉市幕張から登戸までの区間については、昭和42年度から直轄事業として改築事業に着手し、昭和45年度に全線4車線で開通しています。

近年では、千葉西警察入口交差点からポートアリーナ前交差点では主要渋滞箇所が連続しており、慢性的な渋滞が発生していることから、交通混雑緩和と沿道環境の改善を目的に、車線の増設（4車線→6車線）や地下立体化を国土交通省千葉国道事務所が実施しているところであり、**平成28年10月に全線開通**されました。



千葉街道略図  
出典：千葉国道30年の軌跡



明治中期の国道14号（千葉市稲毛区付近）  
出典：千葉の道 千年物語



現在の国道14号（千葉市稲毛区付近）  
（国道357号との重複区間）  
出典：千葉国道事務所

### 水戸街道

千葉県北部の松戸、流山、柏、我孫子を横切り、東京と東北地方を結ぶ、国道6号の日本橋から、水戸までの区間は、現在も「水戸街道」と呼ばれ親しまれています。

国道6号、新葛飾橋の上流100メートルほどのところにあった、金町・松戸の関所には、公認の渡し場「大向の渡し」があり、官道である水戸街道を渡してつなぐ重要な関門でした。

明治2年（1869年）に関所が廃止され、明治44年（1911年）、松戸町と対岸の金町村の関所跡の間に、長さ149メートル、幅8メートルの木橋の葛飾橋が誕生し、橋の架設は、それまで渡し船でしか渡河できなかった人々の生活を大きく変えることになりました。荷車、自転車等の普及により、ますます陸上交通へ傾斜し、そして、昭和2年に、**腐朽の激しい木橋から鉄橋へ葛飾橋が架け替えられる**頃には、トラック輸送する業者も現れ、農産物を積んで、盛んに東京神田、千住の市場へ通うようになりました。

現在、旧水戸街道となった葛飾橋から約100メートル南に**葛飾大橋が架けられる**など交通の大動脈としての活況を呈しています。また、平成30年に外環道が完成することで千葉県北西部地域の更なる交通の円滑化が期待されるところです。



水戸街道略図  
提供：千葉国道30年の軌跡



当時の面影を残す渡し船の風景  
（矢切の渡し）



松戸町の様子（明治44年（1911年））  
提供：松戸市



葛飾橋を渡る路線バス（木橋から鉄橋へ架け替え後）  
提供：松戸市



現在の葛飾橋周辺  
提供：東日本高速道路（株）